

# 『飢えた潮』を翻訳・出版しました 岩堀兼一郎(78回)

マレーシアに住んでいた頃に、ゴーシュの作品と出会いインドへの関心を深めた岩堀さん。機会を得てインドで働くようになり、ゴーシュ、the Hungry Tide『飢えた潮』と出会います。  
実際のシュンドルボンを見に行ったり本作の圧倒的な面白さにひかれて翻訳を決意。沢山の出版社に本作の出版をもちかけ、クラウドファンディングでの資金集めまで。出版までの熱意は本物です。  
岩堀さんご本人から『飢えた潮』についてご紹介いただきます。



岩堀兼一郎 (翻訳)  
『飢えた潮』アミタヴ・ゴーシュ (著)  
未知谷 2023.4



78回生の岩堀兼一郎です。  
私は2003年に土佐高校を卒業してからの20年、東京、シンガポール、マレーシア、インド、熊本と、転々としてきました。その間、英語、ペルシャ語、中国語、マレー語、ヒンディー語などを覚えたり忘れたりしながら、大学でアジア史を研究したり、プラント工事に従事したり、政府開発援助の仕事をしたりしながら今に至ります。そして今年4月、世界的小説家アミタヴ・ゴーシュ『飢えた潮』の翻訳を出版しました。

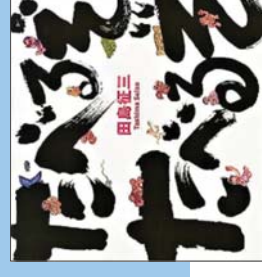
アミタヴ・ゴーシュはインド出身米国在住の英語作家で、彼の作品は日本を除く世界中で愛読されています。本作『飢えた潮』の舞台は、インド・バングラデシュ国境のシュンドルボン。そこは、大河ガンジスとブラマプトラがベンガル湾に流れ込む巨大なマンングロブ地帯、「潮の国」。潮の力で大地が日々変形する異常な場所。巨大サイクロンの常襲地にして、かつて何千人もの難民がひっそりと虐殺され忘れられた場所。河では謎の生態を持つ二種類のカワイルカが泳ぎ、森では人喰いベンガル虎が徘徊する危険な場所。世界の眼の届かないこの「辺境」でカナイ・ピヤ・フォキルの三人が出会う時、人類と自然の均衡が崩れ、過去と現在、二つの時代で、歴史・宗教・差別・神話・政治・地質学・生態系・災害すべてのジャンルを突き抜ける壮大なドラマが幕をあげます。やがて「辺境」が「辺境」でなくなり、世界を見る眼さえ変わってしまう嵐のような巨大なスケールの小説です。

原作発表から20年、現代の名作として世界中で読み続けられてきた本作ですが、海外文学といえど欧米文学という価値観に支配されてきた日本では紹介される機会がありませんでした。そこで今回は出版社と協力してクラウドファンディングでの資金調達を実施、結果、500頁の大作を比較的手頃な価格で出版することができました。

紀伊國屋書店や読売新聞にも注目いただき、現在じわじわと読者が広がっています。ぜひ、ご一読を！

## 出版しーダー

田島征三 (34回生)  
『たべるとたべると』  
佼成出版社 2023.9



門脇護 (53回生) / 門田隆将  
『リーダー3つの条件』  
ワック 2023.3.22



尾池和夫 (34回生)  
『瓜生 山歳時記』  
メタ・ブレーン 2023.4



森岡浩 (55回生)  
『47都道府県・戦国大名百科』  
丸善出版 2023.1



塩田潮 (36回生)  
『必携 すべてがわかる憲法〇×大事典』  
サイバースマイル 2023.3



八木仁平 (87回生)  
『世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方 人生のモヤモヤから解放される自己理解メソッド』  
KADOKAWA 2020.5



村木厚子 (49回生)  
『子ども・社会を考えるシリーズ つながりあうカ〜官民協働で社会をつくる〜』  
ブックスタート 2023.4



八木仁平 (87回生)  
『世界一やさしい「才能」の見つけ方 一生ものの自信が手に入る自己理解メソッド』 (2023/4) KADOKAWA

本書は独自の自己理解プログラムを提供する筆者の第2作目。才能は、人より秀でている類のものでなく、「ついやってしまうもの」と定義し、読者が自分で才能を「見つける」「活かす」「育てる」方法を教示してくれます。才能発見ワークは質問が具体的です。本書にそってすめつけば自身の気づきも深まると「才能」を言語化できるようになります。ワークの一つ「才能の具体例100リスト」は、短所だと自認していた性質を「才能」なんだよと背中を押してくれるように、救われる気持ちになる読者もいるのではないのでしょうか。『世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方』とあわせて読んでみてください。



森岡正博 (52回生)  
『生きることの意味を問う哲学：森岡正博対談集』  
青土社 2023.4

